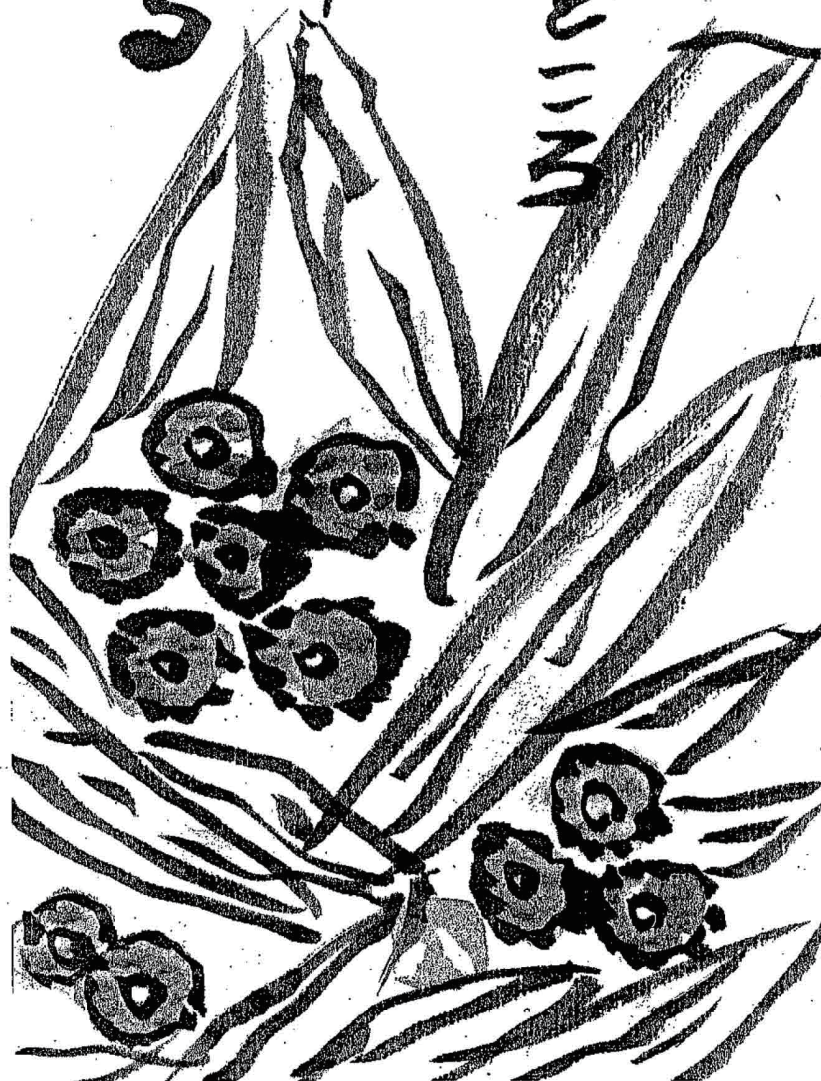


# とよ・たち美肌通信

## 4月号 vol.21

心ある人  
集まる絆



絵を描くのが趣味である70才代の純日本的な大変素敵な患者さんです。

以下、患者さんのコメントになります。

院長・スタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

『先生、皆さまいつもありがとうございます。とよ・たちいつも読ませていただいています。

自分以外の人、その他のものへの思いやり、日々の色々なことに前向きな暖かい心が伝わってきて、こちらも本当に嬉しくなります。

何かとつらい事の多い今、とよ・たちは嬉しいですどうぞこれからも続けて下さい。お願いします』



豊郷 Tachikawa Clinic

たちかわ皮ふ科クリニック\*

『三気欠乏症』になってはいけない！

これを書いているわたくしは全くもって未熟であり、発展途上である事を先に申し上げます。しかしながら少なくとも水前寺清子氏の 365 歩のマーチが如く 1 歩進んで 2 歩下がっても、『あなたの付けた足跡にや〜きれいな花が咲くでしょう〜♪♪』と心の中で歌いながら日々努力していると考えております。

また、『元気があれば何でも出来る、1・2・3 ダーッ！！』とアントニオ猪木氏も言っている様に、私的には『やる気・根気・元気』の 3 つの気があれば何でも出来ると信じています。

さて、表題の三気欠乏症とは、まさにこの三つの気（やる気・根気・元気）がないことを示しており、最近あらゆる局面でこの事を感じる機会が多い様に思います。

料理人道場六三郎氏がある雑誌の対談で言っていた事です。「例えば一つの店に 10 人が働いていたとする。もしその中で一番になれば、世間にはそういう店が無数にあるわけだから本当は何万人という料理人の中で一番か、それに近い実力があるということなんです。逆にいえばその店でダメな奴はどここの店に行ってもダメだということですね。だから先ずその店で一番になることが大事。（中略）だから僕はいつもこう思っていました。人の 2 倍は働こう…。」（到知：2012.4 より抜粋）自分に出来ない事まで他人に強要するつもりはありませんが、少なくとも向上心や物事を飽きずに長くやり続ける気力を持たない人に神や仏はその愛を持ってしても味方してくれないのではないのでしょうか。

先日、食堂で昼食をとっている時のこと、隣に 70 才代後半と思しき 3 人の女性がおられこんな話をしていました。どうも知り合いに就職が出来ない若い人がいる様で、「今は就職難就職難だとか言っているが、それは職を選んでいるからだ。私達の時代は何でもやらざるを得なかった」と言っていました。

この事は正に根性です。つまり先程の 3 つの気の 1 つである根気の事です。戦後の日本は世界的にも類を見ない成長を遂げた国として世界の手本とされてきました。その中核となった精神の 1 つが根性であったのだと思います。その戦後復興期を生きた彼女達から見て今の就職難はどの様に映るのか一度うかがってみたくなりました。

いよいよ春本番となりましたが、5~6 月の頃にはツバメも飛来し巣を作ることでしょう。巣では少なくとも数個の卵からヒナがかえるでしょう。そのヒナ等は生まれた時から兄弟間で競争をしなければなりません。親がエサを運んでくるのでしようが、私には順番に給餌しているとはどうしても思えません。大きな黄色い口を開け、大きな声で鳴いたものだけがより成長できるのです。つまりヒナにとって、大きく開口すること・大声で鳴くこと・黄色い口をより目立たせることは、親の給餌本能を刺激するために必要なのではないでし

ようか。この生きる本能に多大に影響を与えるのが「元気さ」なのだと思うのです。いかに元気ということが必要なのか、考えたいものです。

私はこの“3つの気”を持って生きたいと思っています。因みにこの『やる気・根気・元気』は私が小学生の時月曜日の朝礼で校長先生が言っておられた事で、私がアレンジしたものです。この事を教えて下さった校長先生に感謝致します。

院長：刀川